

複数のマクロ経済の姿と財政健全化についての試算 (参考資料)

∞

平成 18 年4月7日

1. マクロ経済と財政健全化の目標 -9通りのケース-

様々な経済前提(成長率と金利の組み合わせ)の下で、国と地方を合わせた財政健全化(公債等残高GDP比を持続的に低下させる)を達成するためにどの程度の収支改善努力(基礎的財政収支GDP比)が必要か。

長期金利 名目 成長率	3%	4%	5%
2%	2%程度の黒字	2%以上の黒字 (3)	3%超の黒字
3%	小幅な黒字	2%程度の黒字 (1)	2%以上の黒字
4%	均衡で十分 (4)	小幅な黒字 (2)	2%程度の黒字

より厳しい環境
(大きな黒字が必要)

(注) この分析では、金利、成長率を財政収支と独立に設定しているが、財政赤字の下ではリスクプレミアムが増大し、金利が上昇するなど財政収支の動向は金利、成長率に影響を及ぼすことに留意が必要。

長期金利 = 名目成長率+2%

長期金利 = 名目成長率+1%

長期金利 = 名目成長率

より楽な環境
(小さな黒字で十分)

2. モデルによる試算 -4つのケース、3つの収支改善努力-

(1) 3%成長・4%金利ケース

収支改善努力① 基礎的財政収支(PB)均衡
 収支改善努力② PB(GDP比)1%黒字
 収支改善努力③ PB(GDP比)2%黒字

(2) 4%成長・4%金利ケース

収支改善努力① 基礎的財政収支(PB)均衡
 収支改善努力② PB(GDP比)1%黒字
 収支改善努力③ PB(GDP比)2%黒字

(3) 2%成長・4%金利ケース

収支改善努力① 基礎的財政収支(PB)均衡
 収支改善努力② PB(GDP比)1%黒字
 収支改善努力③ PB(GDP比)2%黒字

(4) 4%成長・3%金利ケース

収支改善努力① 基礎的財政収支(PB)均衡
 収支改善努力② PB(GDP比)1%黒字
 収支改善努力③ PB(GDP比)2%黒字

(注1) 上記の収支改善努力は2015年度における国・地方合計

(ただし、収支改善努力①の基礎的財政収支(PB)均衡は、2011年度に達成)

(注2) 以下の試算では、国と地方が歳出を同率で削減することにより、国と地方を合わせた基礎的財政収支の均衡ないし一定の黒字を達成するものと想定している。

上記の収支改善努力を歳出削減だけで達成するためには、追加的な収支改善努力のない場合に比べ、
 ・2011年度PB均衡の場合、10%台後半の歳出削減(GDP比3~4%程度)
 ・2015年度PB2%黒字の場合、3割程度の歳出削減(GDP比6%台後半~7%程度) が必要。

(注) 必要となる歳出削減の大きさは、各ケースによって多少の相違があり、幅をもってみる必要がある。

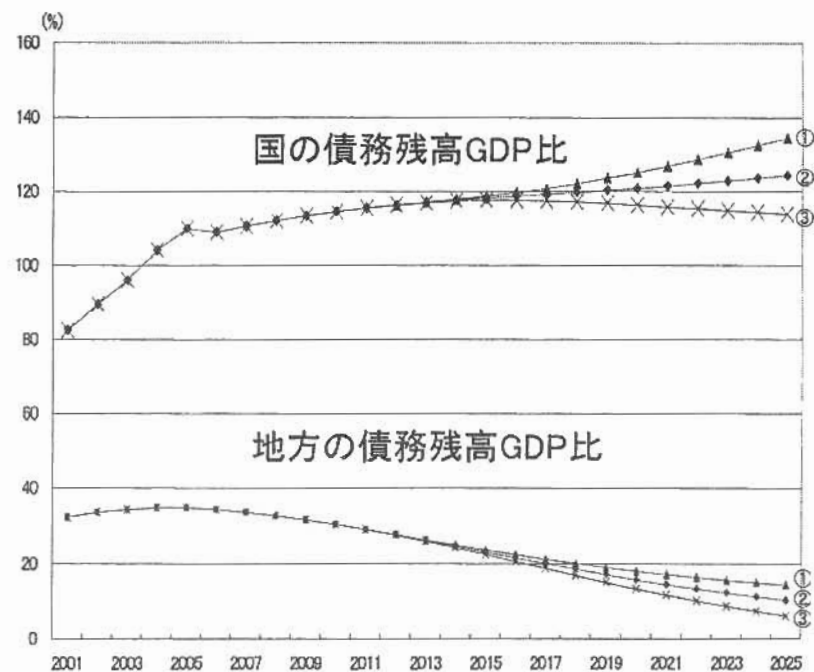
(1) 3%成長・4%金利ケース

○国・地方の公債等残高GDP比

- ① PB均衡では発散。
- ③ PB2%の黒字であれば持続的に低下。

○国の債務残高GDP比

- ① PB均衡では発散。
- ② PB1%の黒字でも発散。
- ③ PB2%の黒字でも僅かな低下にとどまる。



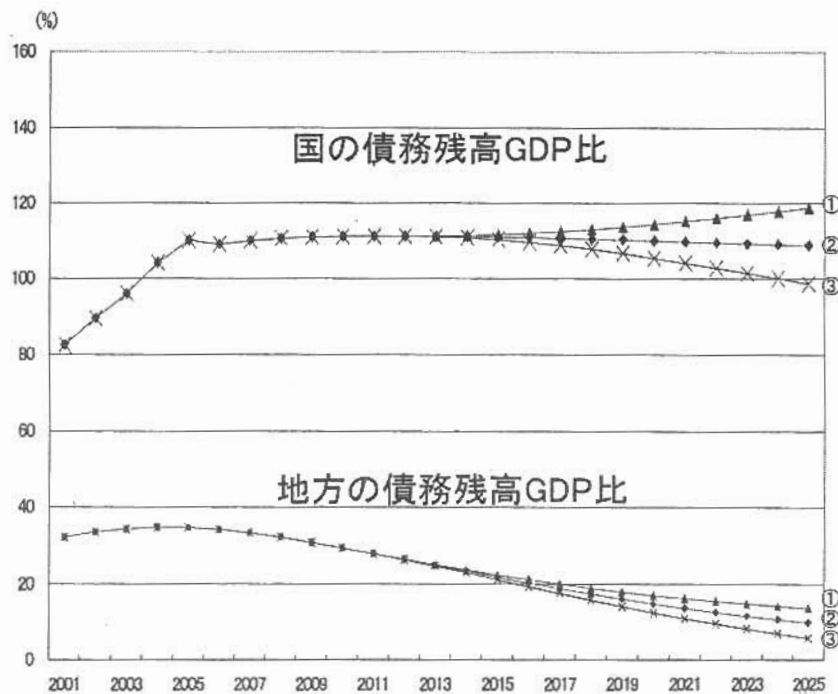
(2) 4%成長・4%金利ケース

○国・地方の公債等残高GDP比

- ① PB均衡でやや低下。
- ②③ 小幅でも黒字が確保されれば持続的に低下

○国の債務残高GDP比

- ① PB均衡では発散。
- ② PB1%の黒字では持続的に低下しない。
- ③ PB2%の黒字でやや低下。



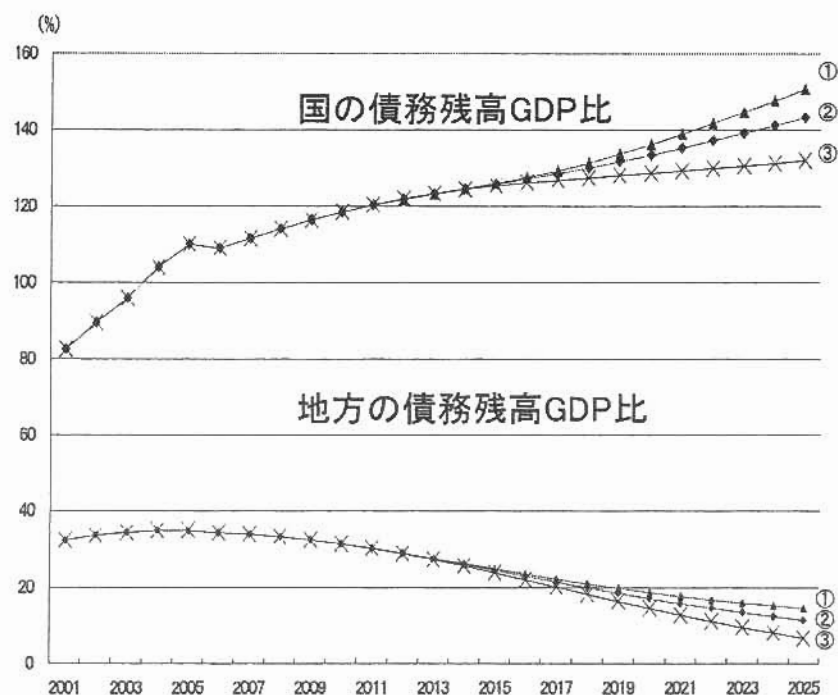
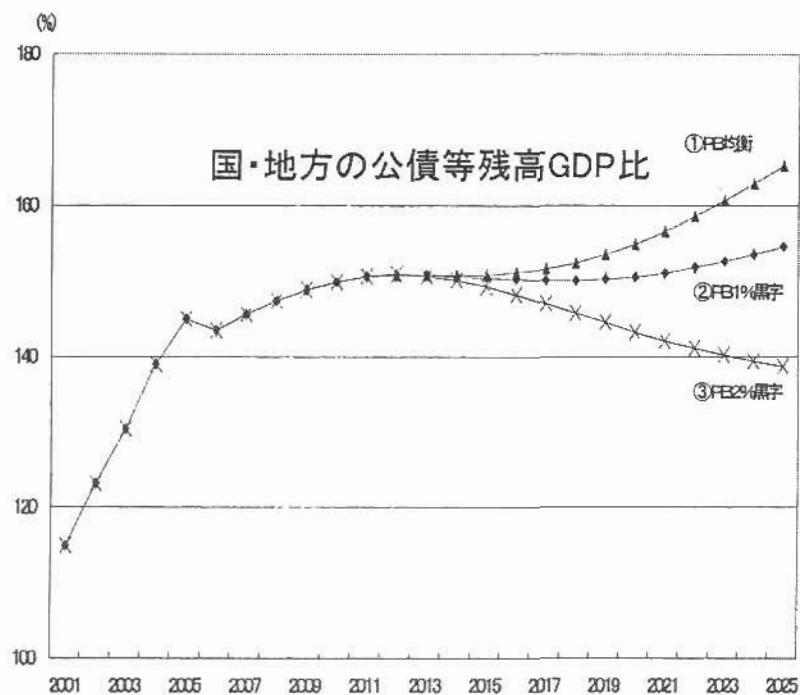
(3) 2%成長・4%金利ケース

○国・地方の公債等残高GDP比

- ① PB均衡では発散。
- ② PB1%黒字でも発散。
- ③ PB2%以上の黒字があれば低下。

○国の債務残高GDP比

- ①②③ いずれも発散。



(4) 4%成長・3%金利ケース

○国・地方の公債等残高GDP比

①②③ いずれの場合も低下。

○国の債務残高GDP比

① PB均衡では横ばい程度。

②③ PB1%以上の黒字があれば低下。

